

# 森と自然を活用した保育・幼児教育に関する自治体勉強会

平成29(2017)年11月2日

国立オリンピック記念青少年総合センター

## Ⅲ 各自治体(鳥取・長野・広島・岐阜)の発表を受けての考察

### 「森と自然を活用した行政施策の現状と課題」

杉山浩之 (広島文教女子大学)

# 1 鳥取県(とっとり森・里山等自然保育認証制度、H27～ とっとり自然保育認証制度、H29～)

県外からの**移住者**(智頭町)が多い背景にあるもの

- ・第3子以降と同時在園第二子の**保育料無償化**(園、森のようちえん)
- ・智頭町**100人委員会** → 様々な補助金の獲得(経営手腕)
- ・自然の魅力を活用・発信する事業を応援する「**子育て王国**」の環境・行

森のようちえん主催者・関係者の**チームワークと実績(成果)**

- ・2016～毎年の**フォーラム開催** ・「とっとり**森のようちえん会議**」(毎月)

## 2 長野県(信州型自然保育<信州やまほいく>認定制度H27~)

- 「特化型」と「普及(一般)型」の同時スタート
- 保育の質の担保としての認定基準:「**研究・研修**の義務付け」「**保育記録の公開**」
- 「自然活動」限定ではなく「**生活体験**」や「**地域交流**」も推進する
- 自然環境に合わせた「柔軟性」**のある時間基準
- 認定後の保育者・子どもの変化:**観察力の向上, 感性・人間性の回復**など
- 自然保育は森や山がない**都会でも出来る**ということ

### 3 広島県(ひろしま自然保育認証制度 H29～)

- ① 県レベルとして3県目の「森のようちえん」支援制度スタート
  - ・研修費の半額補助(H30からの今後に期待される)
- ② 自然保育の「良さ・価値」を広報する方法(県民・園へのPR)の模索中
- ③ 保護者の選択肢の一つとしての「自然保育」になるための条件
  - ・「非認知的能力」(人類史的アプローチ、新要領・指針、・・・)
  - ・運動能力(スポーツ)や健康への志向性とのマッチング

## 4 岐阜県 ～ぎふ木育30年ビジョン(H24～)～

木育キャラバン(園への支援、おもちゃ)

↓ ↑

<理念の実現>

① 財源(森林・環境税) → 人材育成・交流 ⇔ 「つながり」

↓ ↑

木育ひろば(拠点の整備)

② 「木育ステップの階段」(目指す姿) 「世代間連鎖:次世代へ」  
「伝える」(子どもも!)

③ 「多様性」 → 活動の「型」 + 木育の「質」の追究  
「共通価値」 → 「森林や山が抱える課題」と「環境教育」  
= 持続可能性への繋が

## 4県の取り組みを通して「自然保育」の今後に向けての提案

1) 保育の質(グローバルスタンダード) 2013・14年度のヨーロッパ視察(ドイツ・スイス・デンマーク)

ヨーロッパ基準: 保育の質 = 「**保育者の質**」保障 → 「保育内容」(要領)担保

デンマークの例: 全国私立保育連盟による研修プログラム(60日間)

ドイツ: 大学における研修講座

資格制度(「自然保育専門職」← 日本自然保育学会への期待、韓国の事例「**森指導士**」)

韓国: 避難小屋の設置、保育所以外の**児童福祉施設**が自然保育を取り入れる

2) 「森林の整備と安全の確保」ドイツでは、森林局が「**市民や保護者の意見**」で動く仕組み

3) 「保育内容」は、子どもの興味関心や発達を土台とするもの

**教育効果の実証調査**(ドイツの例、日本の例)

方法論: **ユニバーサル・デザイン**(自然体験欠乏症や発達障害の子どもたちにも)

4) 多様性の中での「**環境教育、ESD**」(スウェーデン環境保育:ムツレ教室)